

食と農の未来を育てる

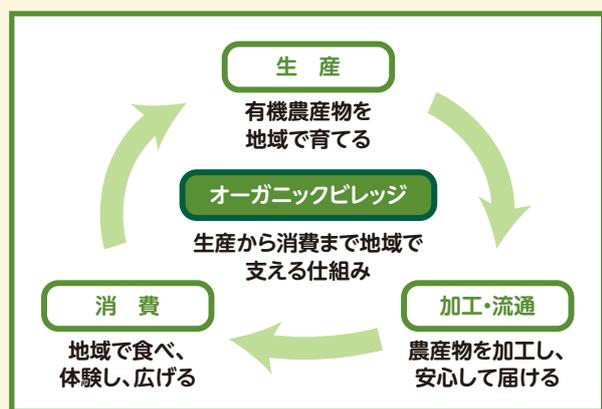
八頭町オーガニックビレッジ宣言



地域ぐるみで広げる「オーガニックビレッジ」

「オーガニックビレッジ」とは、有機農業の拡大に向けて、生産から消費までを地域でつなぐ取組を進める市町村のことで、農業者だけでなく、事業者や地域の人々など多くの関係者が関わりながら、学校給食での活用や地域での消費などを通して、有機農業を広げていきます。

国は、こうした先進的な取組を全国へ広げることを目指しています。



生産から食卓まで、地域ぐるみで進める有機農業

扇ノ山をはじめとする山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれた八頭町。この地で受け継がれてきた農業に、いま新しい動きが広がっています。

土を育て、生きものの多様性を守りながら、農業と暮らしを未来へつなぐべく……。町では、生産から消費まで地域が一体となって有機農業を進める「オーガニックビレッジ」を宣言しました。

食と農業を次世代へつなぐ町の取組を紹介します。

オーガニックビレッジって農家だけの話？

オーガニックビレッジは、農家だけの取組ではありません。地域の農産物を選ぶことは、地元の農業を支えることにつながります。また、環境に配慮した農業が広がることで、豊かな自然や地域の暮らしを未来へつなぐことにもなります。

オーガニックビレッジは、食べる人や地域で暮らす人も一緒に育てていく取組です。



地域で広げる

有機農業のかたち

町では、オーガニックビレッジ宣言のもと、有機農業を地域ぐるみで広げる取組を進めています。

有機農業は、農薬や化学肥料に頼らず、土や水、生き物など自然の力を生かして農産物を育てる農業です。実際に取り組む中で、田んぼや畑に多くの生き物が戻るなど、環境面での変化も見られています。

町では、有機農業を次の3つの視点から推進しています。

■ 環境を守りながら続けられる農業

■ 安心して食べられる農産物の提供

■ 地域資源を生かした循環型農業

こうした考えをもとに、生産から消費までを地域で支える仕組みづくりを進めています。



① 環境を守る農業

土づくりから始まる、持続可能な農業

農薬や化学肥料に頼らず、土の力や自然の循環を生かして農産物を育てる有機農業は、環境への負荷を減らし、生き物が暮らせる農地づくりにつながります。町では、有機栽培の技術研修や農業者同士の情報交換の場を設け、取組を広げています。

持続可能な農業を次世代へつなぐため、地域全体で環境に配慮した農業を進めています。



② 安心を食卓へ届ける

地元の農産物を、子どもたちの食卓へ

有機農産物を身近に感じてもらう取組として、学校給食への活用を進めています。現在は有機米と野菜の提供を段階的に拡大しており、将来的には給食で使用する米の全量は、有機米へ転換することを目指しています。また、直売所やイベントでの販売を通じ、地域で生産された農産物を地域で消費する「地産地消」の取組も進めています。



③ 地域資源を生かす循環

地域の恵みを循環させる農業へ

町内の畜産農家と連携し、家畜ふん由来の堆肥やメタン発酵消化液などを農地で活用する取組を進めています。また、果樹の剪定枝を炭化して土壌改良材として活用するなど、地域資源を生かした土づくりにも取り組んでいます。

輸入資材に頼りすぎない農業を進めることで、環境にやさしく、安定した農業経営につながっています。



④ 地域ぐるみで支える体制

農業者・地域・行政がつながる仕組みづくり

有機農業を広げるため、「八頭町オーガニックビレッジ推進協議会」を中心に、農業者、行政、JA、直売所、学校給食関係者などが連携し、取組を進めています。栽培技術の共有や販路の確保、生産者と消費者をつなぐ仕組みづくりなどを通じて、有機農業を地域全体で支える体制づくりを進めています。



八頭町が目指すこれから

町では、有機農業の広がりに向けて次の目標を掲げています。(令和11年度までの目標)

① 有機農業者の担い手

9人 → 12人へ

有機農業に取り組む担い手を増やし、安定した生産体制を目指します。

② 学校給食への有機米の提供

5日 → 140日へ

学校給食での有機米の提供を拡大し、子どもたちの食育につなげます。

③ 有機米の作付面積

313a → 733aへ

有機米の生産面積を広げ、地域全体で有機農業を推進します。

それぞれの想いで育てる、有機農業



安心して選べる農産物を、地域の当たり前前に。
ハチドリFARM
和田さん

和田さんが有機農業に関心を持ったきっかけは、約12年前。お子さんの食物アレルギーを機に、家族が口にする食べ物について考えるようになったことでした。消費者としてオーガニックや添加物の少ない食品を選ぶ生活を続ける中で、「自分でも安心できるものを育てたい」と考え、農業の道へ進みます。現在は、農薬や化学肥料を使わない自然栽培に取り組んでいます。有機農業の中でも特に苦労しているのが水

田の雑草対策です。年数を重ねるにつれて雑草の発生が増え、お米の品質や収穫量に影響が出ることもありま。雑草を抑えながら作業の負担を減らす方法を見つめるため、試行錯誤を続けています。

町がオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業を地域で広げていく動きについて、和田さんは「生産者の努力に加え、消費者の理解と需要があつてこそ続けられる」と話します。「値段だけでなく、どのように作られた農産物なのかを知り選んでいただける方に喜んでもらえるよう真摯に取り組んでいきたい」と話します。



安心して手に取ってもらえる野菜を「ついでに」。
八頭船岡農場
亀井さん

八頭船岡農場で働く亀井さんが農業に携わるようになったきっかけは、家族が続けてきた農業に関わったことでした。現場で経験を重ねる中で、野菜づくりの奥深さややりがいを感じ、農業の道を進んでいます。

現在は、主に野菜の栽培や出荷作業に携わり、品質にこだわった農産物づくりに取り組んでいます。亀井さんが大切にしているのは、味はもちろん、見た目にも気を配ること。見た目が整っていると



手に取ってもらいやすく、食べる人にも喜んでもらえると考え、日々の管理や選別作業にも丁寧に向き合っています。また、安定した品質で届けるため、作業の一つひとつを確実に積み重ねることを心がけています。「作るからには、安心して選んでもらえるものを届けたい」と話す亀井さん。地域の農業を支える一員として、これからも一つひとつの作業に誠実に取り組んでいきます。

土づくりから生まれる、おいしさを未来へ。
(有)田中農場
田中社長



を支えるのが土づくりです。地元の畜産農家から供給される堆肥を活用しながら、地域資源を循環させる農業に取り組んでいます。また、作業効率を高めるため新しい技術も取り入れ、持続可能な生産体制を整えています。

農閑期には白ネギの栽培にも挑戦しています。雪の下で甘みを増した白ネギは自然の恵みを感じられる作物の一つです。さらに、素材の良さを生かした加工品づくりにも取り組み、八頭の農産物の魅力発信にもつなげていきます。

田中農場は、養豚を原点に作物栽培へと取組を広げながら、地域とともに歩んできました。その中で大切にしてきたのが、土づくりを基本とした環境に配慮した農業です。化学肥料や農薬にできるだけ頼らず、自然の力を生かした栽培が続いています。現在は水稲を中心に、豆類や野菜などを栽培しています。耕作面積が広がる中でも、田中さんが変わらず大切にしているのは「美味しいお米をつくること」。その品質



オーガニックビレッジは、町の未来の暮らしづくり

有機農業は、生産者だけの取組ではありません。

学校給食や地域イベントなど、暮らしのさまざまな場面を通して、町ぐるみの取組として広がっています。

暮らしの中で広がる「選ぶ」という参加

町では、有機農産物をより身近に感じてもらうため、八頭町マルシェなどのイベントで販売やPR活動を行っています。

実際に農産物を手に取り、生産者と会話しながら選ぶ体験は、有機農業を知るきっかけになります。「どのように作られているのか」「どんな思いが込められているのか」を知ること、日々の買い物で地域の農業を支える行動にもつながります。

有機農業は、生産者だけで広がるものではありません。暮らしの中で「選ぶ」ことが、地域の未来の農業を支える一歩になります。

学校給食から広がる「食」と「学び」

町では、有機農業で育てられた農産物を学校給食に取り入れる取組を進めています。また、実際に作物を育てた生産者が学校を訪れ、子どもたちと一緒に食事をしながら、栽培の工夫や農業への思いを伝える「交流給食」も実施しています。

子どもたちはこの交流を通じて、食材がどのように育てられているのを知り、食への関心を高めるとともに、食べることの大切さを学びます。こうした体験は、地域の農業を身近に感じるきっかけにもなっています。

学校給食を通じた取組は、「食べる」ことを「学び」へとつなげ、未来を担う子どもたちへ地域の農業を伝える大切な役割を果たしています。



地域ぐるみで育てる「有機」という選択

有機農業は、単に農薬や化学肥料を使わない栽培方法ではありません。地域の自然環境を守り、生き物の多様性を育みながら、安心できる食を次の世代へつないでいく取組です。

町では、有機農業を個々の農家の取組にとどめず、地域全体で広げていくことを大切にしています。有機農業は、地域ぐるみで取り組むことで、環境や農業、暮らしを守る力になります。

「どのように作られているか」を知り、「選んで食べる」ことも、地域の農業に参加する一つの形です。

オーガニックビレッジの取組は、農業の未来だけでなく、地域の暮らしや風景を守り育てていく挑戦です。

